

SD トークセッション <山口和加子アンケート>

質問1 「スペースデザインとは」

あなたが思う新制作のスペースデザイン(部)とは何ですか？その魅力はどこにありますか？

表現方法・素材・技法にほとんど規制がなく、自由に制作した作品を発表出来る場と考えています。また、スペース(部屋や空間)をデザインする事、作品が置かれた場をイメージして、作品を作っていく事も大切だと思っています。スペースデザイン部の会場は、壁作品、立体作品、近年は小作品の部門もあるので、多岐にわたる作品の出品で、見ていても楽しい空間になっていると思います。

質問2 「テーマ」

あなたの作品(または創作)のテーマや特徴は？

一つの単位の連続と色彩の変化で、組み合わせていく事に、こだわりを待って制作しています。創作のテーマは、基本となるパーツのテクスチャーを決め、それを重ねたり並べたりして、作品を完成していく事です。30年以上も前に、柔軟性と、強さのある和紙に出会い、主な材料はずっと和紙を中心に使っていますが、最近はアルミ板に貼ったり、洋紙を合わせたり、素材を楽しんでいます。

質問3 「素材と技法」

素材と技法についてのこれまでの工夫などを簡単に教えてください。

主な素材は、ずっと和紙にこだわり使い続けています。和紙は繊細ですが、強度があり柔軟性にも優れて、多彩な表現をするのに適しています。染色して蒟蒻糊を塗って使います。竹や金属など異質の素材と組み合わせ、表現の可能性を試みるのも楽しいです。現在の私の作品には、いくつかの基本パターンがあり、作品のイメージが決まるとイメージに沿って基本パターンを選択して創作します。

質問4 「空間表現」

美術館の展示空間に作品を表現する際に特に意識することは何ですか？

また、これまで経験した都美術館と新美術館に対する意識の違いはありますか？

新美術館の展示空間は広く高さもあるので、縦に長い作品を創ることも多いです。展示には制限もあり、自分のデザインを形にするのが難しく、その制作方法に悩む事はよくあります。作品はまったくの平面ではなく、少し立体感があり作品全体に空気感が生まれるように意識しています。都美術館の時代は、天井高が異なる二つの部屋の違いを意識していましたが、探索に向かう意識は同じです。

質問5 「イメージの源泉」

あなたの創作イメージの源泉は何ですか？(複数可)

特に影響を受けたモノ・コト・ヒトなどがありましたら教えてください。

今も、創作イメージの源泉は、海、山、花などの自然の風景であり、そこから作品のデザインを具現化し、私らしさを表現出来たらと思って制作しています。自分の作品のモチーフ、技法を優先し、デザインを決めて制作を始めます。和紙という素材に出会えた事や、織物・作品制作を基本的に教えて頂いた先生には、多くの影響を受け、今の自分があると思っています。

質問6 「ターニングポイント」

これまでの創作活動（創作テーマ）の変遷やターニングポイントについて教えてください。

創作活動を始めたきっかけは織物でしたが、ターニングポイントは糸だけでなく、色々な素材を使っていくうちに、和紙に出会い、織る事にこだわらず、和紙を含めた素材による表現を重要視して作品を制作するようになった時であり、他に吉田さんと共同制作を始めた時や、新制作会員になって、諸事情から一人で作品を作る形に戻った時です。

質問7 「エピソード」

これまでのエピソードを幾つか教えてください。

（SD との出会い、応募のきっかけ、初期作品について、失敗談など）

新制作展出品は、20歳代後半に師事していた先生に新制作展に応募してみたらと勧められた事がきっかけでした。2、3回応募してしばらく遠ざかっていましたが、その後、吉田さんと二人展を開いたのがきっかけで、共同制作で応募するようになりました。SD 部は共同制作の出品が出来ますが、長い間二人で作品を出し続け、会員になったのも、私達だけだと思います。

質問8 「メッセージ」

創作活動をされている方々（または出品を目指す人たち）に向けた情報として、ご自身が関心を持っている現代のデザインや美術の作家や作品を挙げてください。併せてそのような方々に向けて何かメッセージをお願いします。

特別に好きな作家はいませんが、テキスタイル作品、現代美術などの展覧会に行って刺激を受けることは、多々あります。たくさん作品を見ることは、ジャンルにかかわらず、とても大切な機会だと思います。

質問9 「ビジョン」

あなた自身のこれからのビジョンと SD 部の今後の展望をお聞かせください。

年齢も重ねてきて、大きな作品を制作する事がだんだん大変になってきましたが、私自身の座右の銘は、「継続は力なり」なので、制作意欲のある間は、少しずつでも制作し続けたいと思います。SD 部は、立体と壁面の作品があり、多くの素材、技法が見られ、賑やかで楽しい会場です。公募展の行き先は厳しいと思いますが、ミニの部門もあり、沢山の方々に応募して頂き、見て頂けると嬉しいです。